識別番号　Ｌ２　2008年度完了学内共同研究

研究課題　主体としてのフィリピン人共同体：カトリック東京大司教区の事例から

研究代表者　寺田勇文（外国語学部アジア文化研究室）

共同研究者　三田千代子（外国語学部ポルトガル語学科）、シリル・ヴェリヤト（アジア文化研究室）、田村梨花（ポルトガル語学科）、ディビッド・ワンク（国際教養学部国際教養学科）

Summary　The foreign migrants in Japan have recently attracted scholarly concern but the issue of their religious practice and their relations with and the participation in the Roman Catholic Church has been rather neglected. This project is an attempt to look into the historical background of non-Japanese Catholic communities, especially Filipinos and Brazilians in Japan.

１．本研究の目的及び背景

1980年代終わり以後、日本においては海外からの移住民(とくにフィリピン人、ブラジル人、ペルー人など)のカトリック信徒が急増し、日本のカトリック教会は大きな変容をとげつつある。日本人カトリック信徒50万人に対してほぼ同数の外国人カトリック信徒が日本に在住していると推定される。この共同研究においては、現在進行しつつあるカトリック教会の変容を、参与観察と当事者のインタビュー等を通じて解明し、また、関係者とのセミナーを開催することにより問題を共有することを目的とする。

２．研究の方法・内容

参与観察、当事者に対するインタビュー、関係者を交えてのセミナー等の開催を中心とする。

３．研究の成果

3年間にわたり東京教区(東京都、千葉県)、横浜教区(神奈川県、静岡県他)を中心にのべ50回をこえる参与観察を行った。当事者とのインタビューは、主としてフィリピン人司祭、信徒、修道女、ブラジル人司祭、修道女、日本人司祭、信徒の方々を対象として行った。

また、関係者を交えてのセミナーを、以下のように2度開催した。

Seminar Ⅰ: Migrants, Multiculturalism and the Catholic Church in Japan
日時：2007年7月21日(土)午後1時～5時
場所：上智大学
参加者：24 名
報告者：
Mr. Hugo Córdova Quero (Graduate Theological Union), “Encounter of Two Worlds?:

Brazilian Nikkeijin within the Roman Catholic Church in Japan”

Ms. Ressurecsion Lagdameo (Graduate School, Sophia University), “The Filipino Community in the Japanese Catholic Church”

Mr. Alec LeMay (Graduate School, Doshisha University), “Understanding Communion amidst Japan’s Diversified Catholic Church”

ディスカッサント：
Fr. Olmes Mirani (Catholic Tokyo International Center)
Fr. Robert Zarate (Catholic Yamato Church)
Ms. Agnes Gatpatan (Catholic Tokyo International Center)
Ms. Omori Hisako (McMaster University)
Prof. Cyril Veliath, SJ (Sophia University)
Prof. MitaChiyoko (Sophia University)
Prof. Mark Mullins (Sophia University)

司会： Terada Takefumi (Sophia University)

Seminar II： Migrants and the Catholic Church in Japan
日時：2008年3月12日(水)午後1時30分～5時30分
場所：上智大学
参加者：30名
報告者：
Fr. Robert Zarate (Catholic Yamato Church), “The Filipinos in the Catholic Church in Japan”

Fr. Evaristo Higa, SDB (Catholic Hamamatsu Church), “Brazilians in Japan”

Ms. Agnes Gatpatan (Catholic Tokyo International Center), “Filipina Women in the Cross-cultural Marriage”

司会：
Prof. Cyril Veliath (Sophia University), Prof. Mita Chiyoko ((Sophia University), Prof. Terada Takefumi (Sophia University)

さらに、大学院グローバル・スタディーズ研究科研究科主催の2008年度大学院生・若手研究者のイニシャティブによるワークショップにおいて、本共同研究の協力者である大学院生らが次のワークショップを行った。

The Transmission of the Catholic Faith within Japanese International Marriages

日時：2008年10月11日、午後1時～5時
場所：上智大学
参加者： 26 名

Presentors
Mr. Hugo Córdova Quero (Graduate Theological Union), “A Universe in Transition: Intersecting Migration, Gender and Faith”

Mr. Alec R. LeMay (Graduate Program in Area Studies, Sophia University), “The Non-religious Catholic: The Role Japanese Fathers Play in the Faith Formation of Their Filipino-Japanese Children”

Ms. Ressurecsion P. Lagdameo (Graduate Program in Area Studies, Sophia University), “Bargaining Faith: Filipino Mothers Asserting Spirituality in Their Families in Japan”

コメンテーター:
Fr. Arakawa Hiroyuki (Catholic Umeda Church), Fr. Robert Zarate (Catholic Shizuoka Church)

以上のように、参与観察、インタビュー、セミナー等を通じて、多方面から日本のカトリック教会において海外からの移住者がおかれている状況の把握に努めた。本研究の成果は国内外の学会等で報告されているほか、『上智アジア学』26 号（上智大学アジア文化研究所）に掲載されている。研究成果は多岐にわたるが、その概要は次の論文で明らかにされている。寺田勇文「海外からの移住者と宗教実践：東京大司教区のフィリピン人共同体を事例として」『グローバル化の中の宗教：衰退・再生・変貌』（上智大学出版、2010 年 9 月刊行予定）。ここでは、とくに主体としてのフィリピン人共同体について、いくつかの知見を述べておく。

フィリピン人共同体のメンバーの多くは移住第一世代であるため、通常の日本語によるミサよりも、その数は圧倒的に少ないが英語またはフィリピン語のミサに出席する傾向が強い。東京大司教区の場合、英語によるミサは他の教区に比べて比較的多いものの、毎週英語のミサを行っている教会はきわめて限られている。フィリピンのミサはさらに限定され、毎週ではなく月に１度いくつかの教会で実施されているにすぎない。こうした英語またはフィリピン語のミサに出席するフィリピン人信徒は、結果的に月に１度か２度ミサに出席するか、あるいは毎週教会をかえてミサに出席することになり、特定の教会に固定されたメンバーとして在籍することが難しい。

そのためフィリピン人を中心とする英語またはフィリピン語のミサの共同体と日本人信徒との間には隔たりがあり、日本語のミサは午前中、英語またはフィリピン語のミサは午後に予定されているため、同一教会であっても両者が交流する機会はきわめて限られている。

フィリピン人共同体のなかには 200 人をこえるメンバーを持つものあり、フィリピンのカトリック教会で盛んな信心業を実践している場合がある。たとえばフィリピンでは全国レベルで盛んな絶えなる御助けの聖母崇敬のためのノベナを毎週水曜日に行っている共同体があり、また、近年、フィリピンでは盛んであるが日本ではほとんど知られていない幼きイエズス（サント・ニーニョ）崇敬とフィエスタを共同体として実施するところが徐々に増えている。また、東京のあるフィリピン人共同体が組織する秋田の聖母に対する巡礼はすでに 20 年の歴史を持つ。富士の聖母に対する巡礼もある教会のフィリピン人共同体が中心となって行われている。

さらに東京大司教区の各地のフィリピン人共同体のメンバーは年に１度集まり、相互の交流する他、フィリピン人共同体が直面する問題について議論し、東京大司教と対話するなどの活動をつづけている。また、このグループは年に１度、チャリティー・コンサートを行い、その収益をフィリピンの地方の小学校などの支援にあてている。

このように東京大司教区ではフィリピン人共同体はフィリピン人ならではの独自の活動を展開しており、長期的にはこれらの信心業や活動が日本の教会をかえていく可能性を持っていることを指摘したい。

最後に、この共同研究を進めるにあたり、さまざまな立場からご協力をいただいた方々、教会、そしてカトリック東京国際センター(CTIC)のスタッフの方々に感謝したい。

以上